

第5回千葉県国際交流協会連絡協議会が 八千代市で開催されました

「千葉県国際交流協会連絡協議会」は、それぞれの国際交流協会が近隣の各協会の活動状況を知り、これからの活動についての参考となる情報を交換することを目的として、平成22年度から毎年開催されています。

今年は八千代市国際交流協会が担当して平成27年1月22日に千葉県関係の2団体と各市の国際交流協会から19協会が参加して開催されました。当協会からは斎藤事務局長、山口外国人支援部会長、高山広報青年部会長が出席しました。

最初に八千代市国際交流協会各部会の活動状況と香取市国際交流協会の外国人観光客の“おもてなし”についての報告がありました。引き続いての意見交換会では事前に寄せられた各国際交流協会の質問を集約して意見を出し合う形で討議が進められました。その主な内容は以下のとおりです。

まず『会員の拡大について』です。これについては現在会員数680名と比較的会員数の多い浦安市国際交流協会から説明がありました。居住地域の特徴として海外滞在経験者が多いのと、各種のイベント参加者に積極的に

PRして会員勧誘活動を行うこと、ミニコミ紙、市広報、協会ホームページ等を有効に活用しているとのことでした。

『青少年のイベント参加について』は市川市国際交流協会の発言がありました。市川市では姉妹都市青少年交流事業について30年以上の歴史があるそうです。従ってこの海外交流事業を経験した学生が、社会人となっても継続して青少年活動の支援をしたり、協会主催の各種イベントに参加して地域貢献活動をしているとの説明がありました。

また、『外国人への防災、災害時サポートのあり方について』は各市行政との関わりが大きいと感じましたが、船橋市国際交流協会では「防災タウンウォッチング」「防災体験ツアー」「防災フェア（市主催）での避難所宿泊体験」等を企画して在住外国人の参加を促進している、との説明がありました。

各協会とも国際交流活動の歴史的な背景と、地域の特性を生かしながら、ボランティアの皆さんの協力を得て地道に取り組んでいるという印象を受けました。

（報告：広報青年部会長 高山進三郎）



八千代市で開かれた連絡協議会